

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 102

学校名・団体名	阿波市立久勝小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	職場体験学習を通して、自分の夢や将来を見つめよう！

1 研究の動機と目的

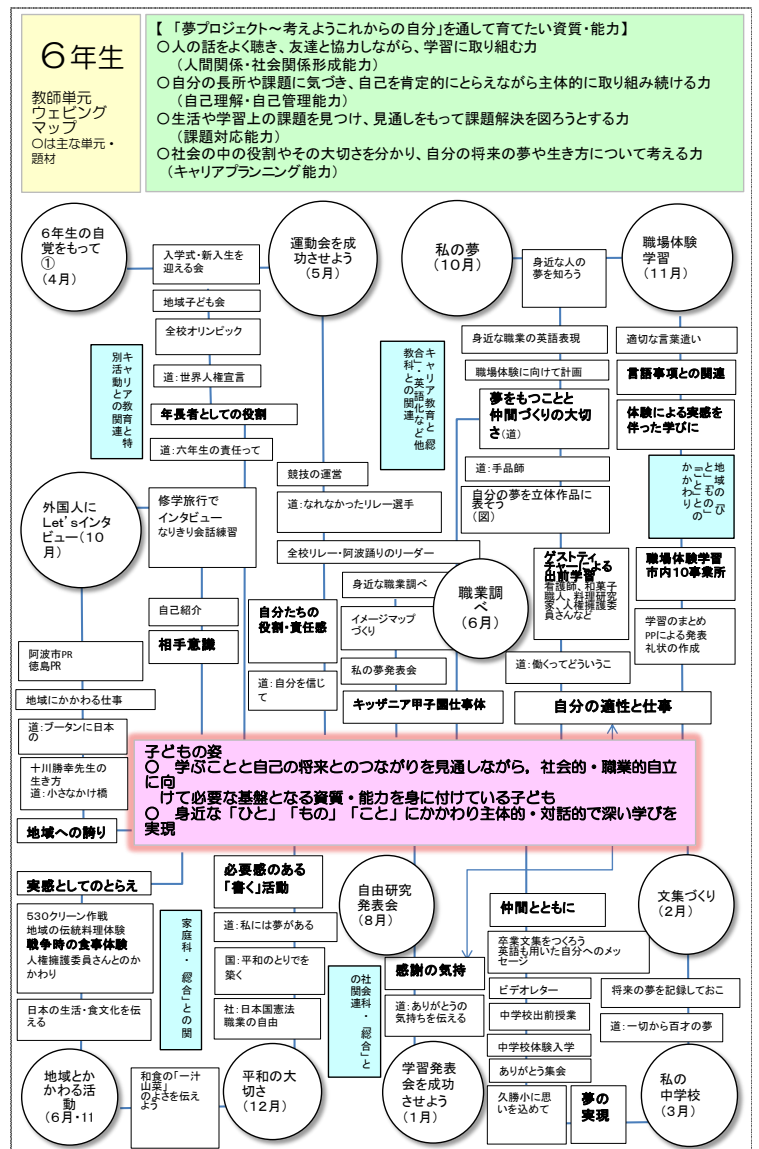
自校の生活調査や学力学習状況調査の結果、将来の夢や目標をもつ児童の割合が低いので、キャリア教育の充実を図ることが課題の1つである。本年度は、特別活動を要に特別な教科道徳と総合的な学習の時間など各教科との関連を図り、身近な「ひと」「もの」「こと」にかかわるキャリア教育を行いたい。6年生にとって「職場体験学習」を通して、自分自身について考えたり、理解したりしながら、働くということを考えることは意義のあることである。そのことで、自分の将来に対する興味や関心が高まり、将来の生き方や進路に夢や希望を持ち、児童は、その実現を目指して、望ましい生活習慣を身に付け、学校での生活や学びに意欲的に取り組むようになってきた。

2 活動内容と研究の仮説

- (1) 教師単元ウェビングマップを作成し、キャリア教育と他の教科等との関連を整理し、指導計画を作成することで児童の興味・関心に応える単元設定や児童主体の授業展開が図られるのではないだろうか。
- (2) 身近な「ひと」「もの」「こと」とどうかかわり、どうつながっていくかという視点でキャリア教育を展開することで、自分の夢や将来について考え、他教科等の学習に積極的に取り組む児童が育つのではないだろうか。
- (3) キャリア教育の活動と国語科の「聞く」「話す」「読む」「書く」の言語事項の関連を図り指導するとともに、児童が主体的に活動したり、友達と協働的な学びを行ったりする場を設定する。そのことで、他者を意識し、互いの思いに共感するとともに、自ら深く考え、考えを伝え合う豊かなコミュニケーションが育まれるのではないだろうか。

3 テーマ解決に向けた具体的な取組

- (1) キャリア教育と他の教科等との関連や言語事項の充実を考慮した「教師単元ウェビングマップ」を作成する。
- (2) 身近な「ひと」や地域の伝統文化等、地域の「もの」「こと」とかかわり、交流の中で学びを深めることでコミュニケーション能力を育成する。また、町内の各事業所の協力を得て、体験を通して児童が学ぶ過程を活動の中に仕組んでいく。
- (3) キャリア教育として取り組む具体的な活動と言語事項と関連付けることで、級友の思いや夢を知るとともに、保護者や地域の方々の思いや願いを感じ取る児童を育てる。

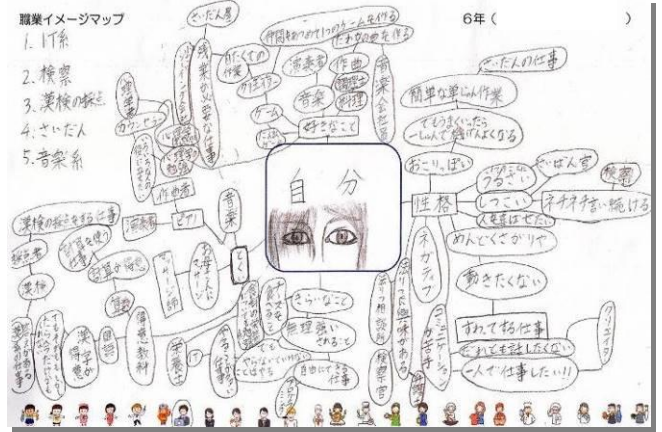


〈 図1 6年生における教師単元ウェビングマップ 〉

4 研究の実際(主な実践事例と成果) 「夢プロジェクト～考えようこれからの自分」(6年生)の活動内容

(1) 身近な職業を知ろう (身近な人の職業調べ)

いろいろな職業について調べ、大まかに分類し児童に掲示した。その後、身近な人へのインタビューやインターネットを活用して、児童は、興味・関心のある職業について、仕事の内容やその仕事に就くまでの過程、必要な資格などを調べまとめた。家族の職業を調べ、実際に職場に行き働く姿を見たり体験したりすることにより、働くことの意義や働く人々の思いを知り、さらには、働くことの大切さに気付いた児童もいる。将来の夢や職業について、家族で話し合う機会をもつことで関心が高まり、将来のために計画性をもって学ぼうとする姿勢が見られるようになった。



〈図2 児童が書いた「職業イメージマップ」〉

(2) 地域の「ひと」との出会い—地域の人材の活用—

各教科と関連して地域の人材を積極的に活用した。本年度は、四国電力、介護ロボットにかかわる人々、間税会の方、阿波市人権擁護委員、阿波踊り「龍虎連」の方々、和菓子「日の出」職人さん、邦楽協会、阿波病院看護部の方々に来ていただいた。出前授業の際に「どうして、この職業を選んだのか」「仕事の苦労ややりがい」について話してもらい、児童の興味や関心を高めるとともに、これからの生き方につながる学習を積み重ねた。

「すごい！」介護ロボットには、こんなに進歩していることを知りました。介護ロボットには、パルロという人型のロボットやパロという人をいやしてくれるアザラシ型ロボットがあります。その他に手を動かしてリハビリに使うロボットなど4種類のロボットを体験しました。これからの日本には、パルロやパロが、必要になってきます。自分の周りにパロやパルロがいるのは楽しみです。ロボットの知能がすごいと思いました。介護に対して興味が出てきました。



〈介護ロボット体験の児童の感想と活動の様子〉



〈図3 和菓子作り体験〉

(3) 職場体験学習

阿波市立図書館、久勝保育所、歯科、阿波病院、阿波郵便局、阿波市役所秘書人事課、ジェラート店、コンビニエンスストア2店舗、養蜂研究所の10事業所で職場体験学習を行った。事前に事業所ごとに、電話をかける児童と内容をメモする児童に分かれ電話連絡を行った。終了後には、打ち合わせ内容をワークシートにまとめるとともに職場体験当日のめあてを設定し、職場体験を行った。



国語で学習した敬語を使い、各事業所の担当者の方と体験学習の打ち合わせを行い、各班ともに協力して電話対応やメモなど、打ち合わせがうまくできました。

〈図4 電話での打ち合わせの様子〉



〈図5 職場体験(はちみつ採取)の様子〉

5 児童への効果

(1) 「単元ウェビングマップ」では児童の実態から「ゴールにしたい児童」までの指導計画を作成した。各教科等との関連を踏まえ、児童のゴールをその都度確認できるので指導方法の工夫改善を図ることができた。職場体験の事前・事後に特別活動や道徳と関連付けることで、道徳的実践力の育成や学級活動における「自己理解能力」や「職業理解能力」「将来設計能力」などのキャリア発達も見られた。

(2) 児童の身近な「ひと」「もの」「こと」にかかわる職場体験学習を通して、体験活動の充実や現実味がある学び、地域の方との絆、働くことの喜びと厳しさの理解、感動による心と態度の変容などの教育的効果が生まれた。身近な「ひと」「もの」「こと」とかかわることで、より主体的で対話的なキャリア教育が展開できた。体験を終え、すがすがしい表情で帰ってくる児童の顔を見ると、小学校の早い段階から発達段階に応じて、地域の「ひと」「もの」「こと」と関連付けた体験活動を行うことの大切さを改めて感じた。

(3) 自己点検カードの記入や「職業調べ」、働く人に学ぶ「出前学習」、「職場体験学習」と一連の学習過程を通して、自分の進路に対して漠然とした意識や関心しかなく、勉強し努力すればいいと考えていた児童も、学ぶことや働くことの意義や役割を理解することができた。中学進学に向け今後の小学校生活を頑張ろうという意欲を感じた。また、多くの児童が職場体験を通し、保護者の仕事の苦労や大変さを知り感謝する気持ちを表現していた。職場体験を通して高まった将来の職業や生き方への思いを更に発展させる学習活動の工夫が必要である。